

OM貯湯槽

取扱説明書

お客様用



- 一般仕様
- 高揚程仕様

はじめに

このたびは、「OM 貯湯槽」をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本機は、太陽熱を利用して得られた温水を保温・給湯する装置です。本機を安全に使用していただくために、ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容を十分理解されてから正しくご使用ください。

本書はいつでもご覧いただけるところに大切に保管し、万一わからないところがあればもう一度読み直してください。

- 保証書は、必ずお買い上げ日、販売店名などの記入を確かめて、販売店からお受け取りください。

もくじ

	ページ
1. 安全上のご注意（必ずお守りください）	4
2. 各部の名称と安全表示ラベル	8
3. 仕様	10
4. 機能と構成	11
5. ご使用方法	12
6. お手入れの方法	16
7. 修理を依頼される前に	21
8. アフターサービス(修理依頼)	22

1. 安全上のご注意 (必ずお守りください)

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。



この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。



警告

■濡れた手で電源プラグなどを操作しないでください。



室内用コンセントを使用したり、濡れた手で電源プラグを操作すると、感電する恐れがあります。

■先に水を出してから、給湯栓を開けてください。



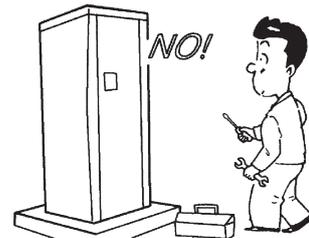
温水温度が60℃を超える場合があり、火傷の恐れがあります。

■熱媒は、幼児の手の届かないところに保存してください。



万一飲んでしまった場合は、すぐに吐かせ、ただちに医師の診療を受けてください。体に悪影響を及ぼす恐れがあります。

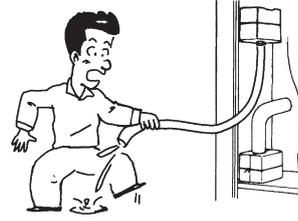
■ご自分で機器の修理改造・分解を行わないでください。



本体の電気ボックスに触れると感電の危険があります。ケガ発生につながる恐れがあります。

 警告

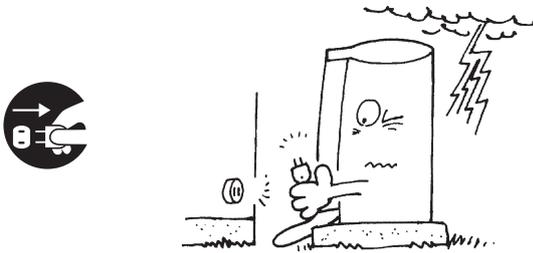
■集熱運転中、逃がし弁から温度上昇による体積膨張のため熱湯が出る恐れがあります。排水ホースを機外に抜き出すときは、排水が手足にかからないよう十分注意してください。



1. 安全上のご注意 (必ずお守りください)

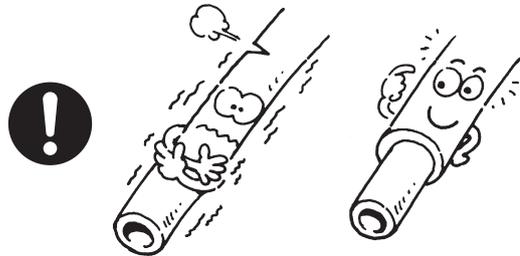
注意

■雷が発生した場合は、電源プラグを抜いてください。



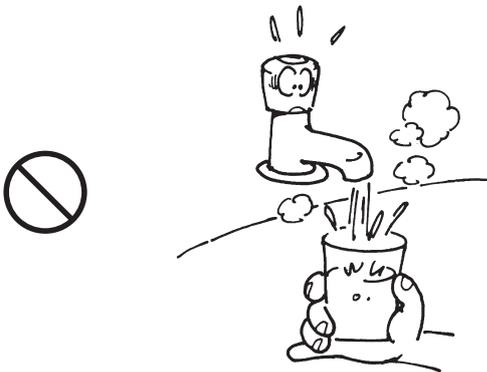
雷により、電子部品を損傷することがあります。

■外気温度が0°C以下になる恐れのある場合は、販売店にご相談の上で、凍結防止対策を行ってください。



給水・給湯回路が凍結すると、本体や配管が破損することがあります。

■給湯栓からのお湯を飲まないでください。



このお湯は飲用に適していません。但し、飲用する場合は、必ず煮沸してから飲用してください。

■給湯栓を開け、水質が透明になってから使用してください。



長期間（1週間以上）使用しない場合、水質が変化していることがあり、体に悪影響を及ぼす恐れがあります。

■熱媒は、弊社指定品を使用してください。



水を入れたり、指定品以外を使用すると、凍結や錆が発生し、性能低下と機器の故障の原因になります。

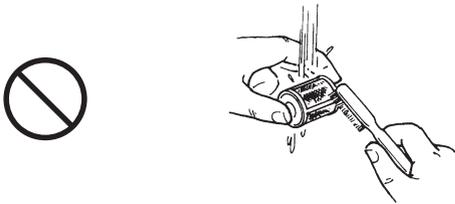
■熱媒の廃棄は専門業者に処理を依頼してください。



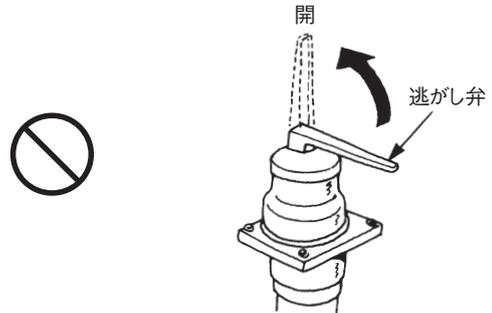
一般下水道等に排水することは違法となります。

注意

■減圧弁内部のストレーナーの清掃をする場合、朝方か夕方に清掃を行ってください。日中にこの作業を行うと集熱器が空焚きの状態になり、集熱器や配管に悪影響を与えることがあります。



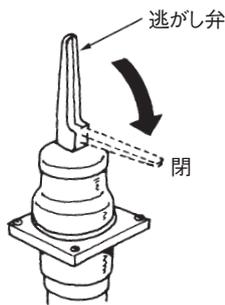
■排水する場合、逃がし弁のレバーを引き上げてください。引き上げずに排水した場合、缶体内が負圧となり変形する恐れがあります。



■排水されることを確認してから逃がし弁のレバーを元通りに下げてください。確認していないと、正しく給湯できません。



■ストレーナーを正しく組み込んでください。正しく組み込まないと、減圧弁の機能を損なう恐れがあります。



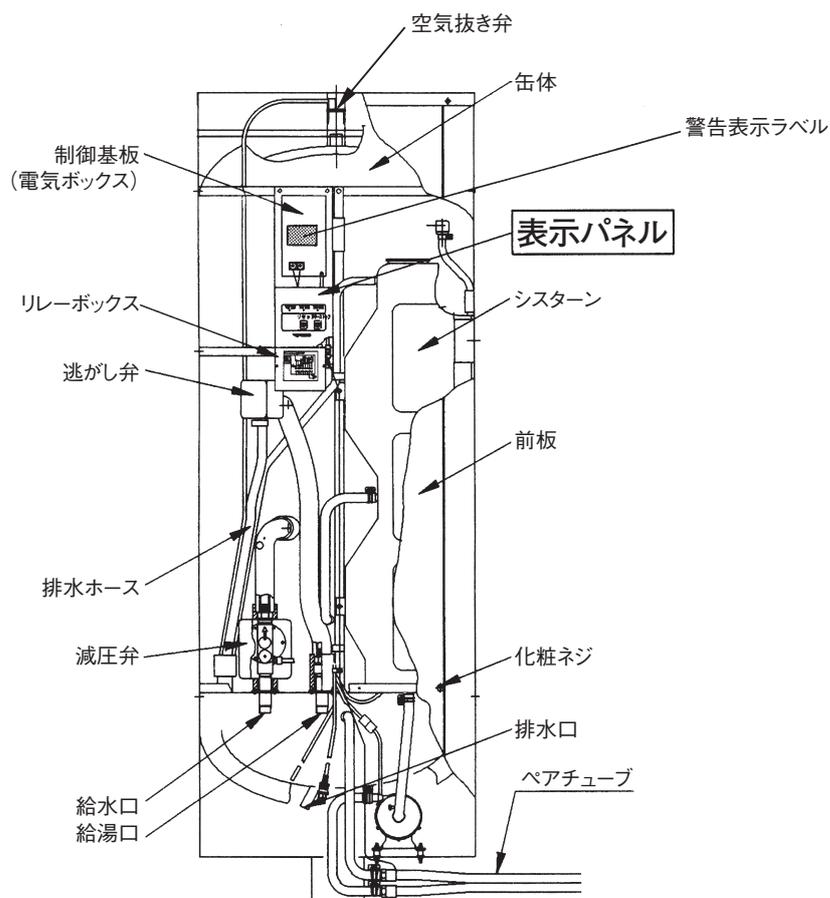
2. 各部の名称と安全表示レベル

【1】貯湯槽

警告表示ラベルについて

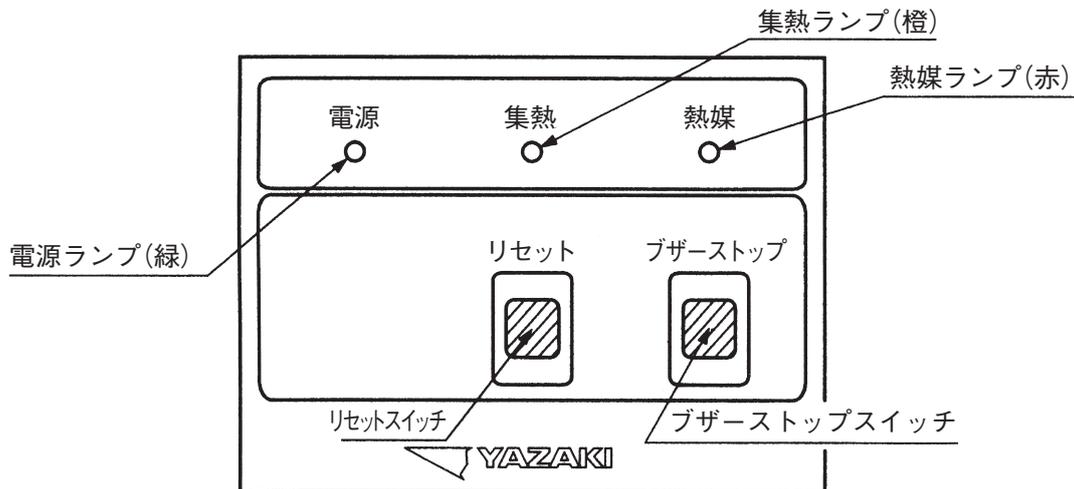
貯湯槽のお取り扱い上、重要な注意事項が警告表示ラベルに記載されています。これらの注意を必ずお守りください。

貯湯槽



【2】 表示パネル

表示パネルの外観



表示パネル各部の働き

項 目		内 容
表 示	電源ランプ	電源投入後、正常に機能しているときは電源ランプが点灯します。
	集熱ランプ	差温サーモが働いて集熱ポンプが運転しているとき集熱ランプも点灯します。異常時は集熱ポンプの停止と共に消えます。OMシステムによりポンプが停止している場合も消灯しています。
	熱媒ランプ	熱媒シスターンのフロートスイッチです。熱媒減少を閏知して集熱機能を停止すると共に熱媒ランプを点灯する原因を取り除き、リセットスイッチを押すと消えます。
ス イ ッ チ	リセット スイッチ	熱媒レベル面の低下が生じて制御機能が停止したとき復帰させるためのスイッチです。
	ブザーストップ スイッチ	警報ブザーが鳴ったときブザーを停止するスイッチです。ブザーは停止するが、他の機能も停止したままです。

3. 仕様

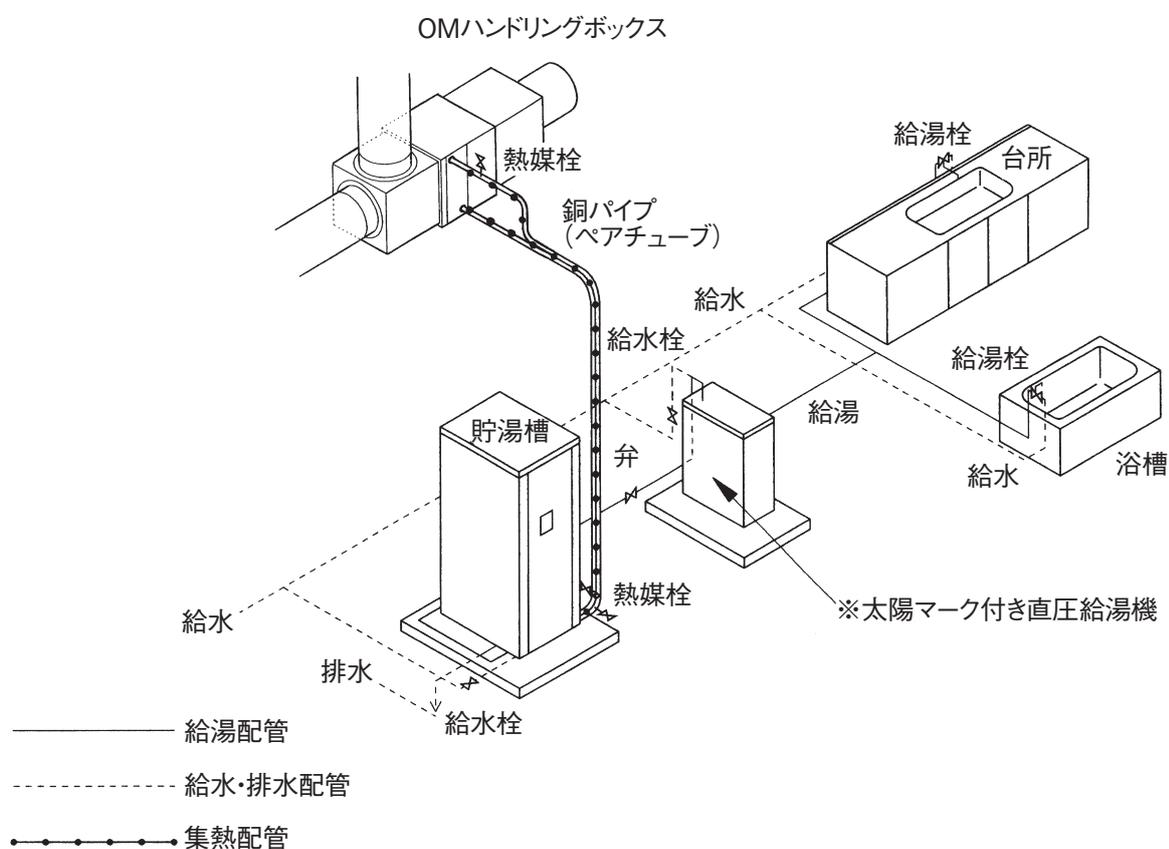
【1】製品仕様

品名・形式 項目	HT-D30P-OM-1	
	一般仕様	高揚程仕様
貯湯槽形式	水道直結密閉式	
外形寸法(高×幅×奥)(mm)	1870 × 632 × 752	
貯湯容量(ℓ)	300	
質量()内は満水時(kg)	88 (388)	91 (391)
主材料	槽：ステンレス鋼板	
	外装類：塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金メッキ鋼板	
	断熱材：グラスウール断熱材	
外装色	ホワイト	
※ 集熱媒体	プロピレングリコール水溶液	
集熱制御方式	差温サーモスタット	
電源	AC100V 50/60(Hz)	
消費電力(W)	90/125 (50/60Hz)	145/190 (50/60Hz)

※ 熱媒は、一般地域・寒冷地域で濃度が異なりますので別売品（オプション）扱いになります。

4. 機能と構成

(例) 「OM 貯湯槽」 と太陽マーク付き直圧給湯機を使ったシステム



※ 太陽マーク付き給湯機とは、太陽熱機器と直接接続できる給湯機を言います。詳しくは給湯機の取扱説明書をご覧ください。

本機の機能

- 本機は OM ハンドリングボックスのコイルに接続し熱媒水の循環により貯湯する機器です。
- 一般的には、直圧給湯機と組み合わせた給湯システムにして使用されます。

5. ご使用方法

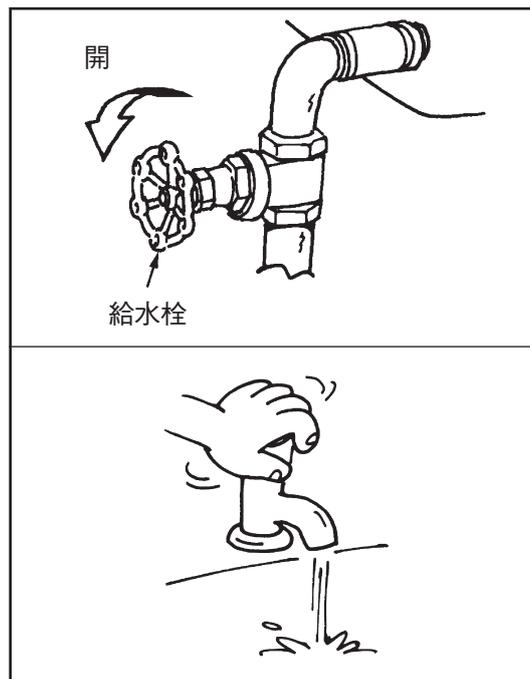
【1】ご使用前の準備

配管工事等で管内に油・ごみ等が付着していることがあります。
次の手順で管内の洗浄を行ってください。

①給水弁を開けます。

②給湯栓を開け、きれいな水が出るまで捨てます。

③きれいな水が出たら給湯栓を閉じます。

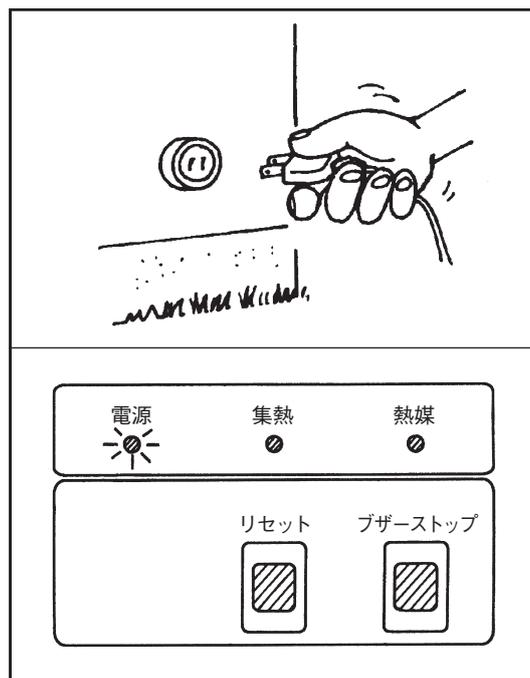


【2】運転方法

①電源プラグをコンセントに差し込みます。

②表示パネルの電源ランプ(緑色)が点灯することを確認します。
※ 電源ランプが点灯しない場合は、21 ページを参照し原因を確かめてください。

③電源ランプが点灯すれば集熱運転はすべて自動的に行われます。
※OM 制御盤との連動については、関連の取扱説明書をご覧ください。



⚠ 警告

濡れた手で電源プラグなどを操作しないでください。室内用コンセントを使用したり、濡れた手で電源プラグを操作すると感電する恐れがあります。

⚠ 警告

ご自分で機器の修理改造・分解を行わないでください。本体の電気ボックスに触れると感電の危険があります。ケガ発生につながる恐れがあります。

⚠ 警告

先に水を出してから、給湯栓を開けてください。温水温度が 60℃ を超える場合があり、火傷の恐れがあります。

▲注意

給湯栓からのお湯を飲まないでください。このお湯は飲用に適していません。

▲注意

雷が発生した場合は、電源プラグを抜いてください。雷により、電子部品を損傷することがあります。

- 熱媒ランプ（赤色）が点灯してブザーが鳴った場合は、熱媒の蒸発、または漏れによる減少が考えられます。

【3】凍結防止

外気温が0℃以下になるような場合は、凍結することがあります。凍結によって本体や配管を破損することがありますので、次のいずれかの方法により地域にあった凍結防止を行ってください。

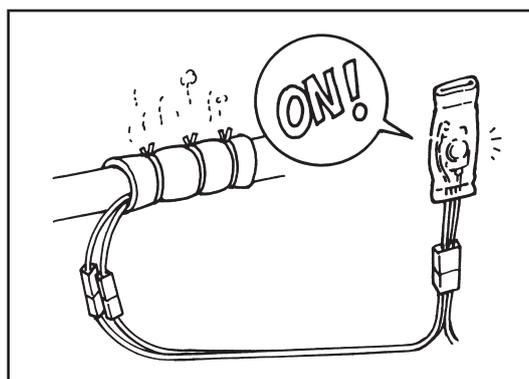
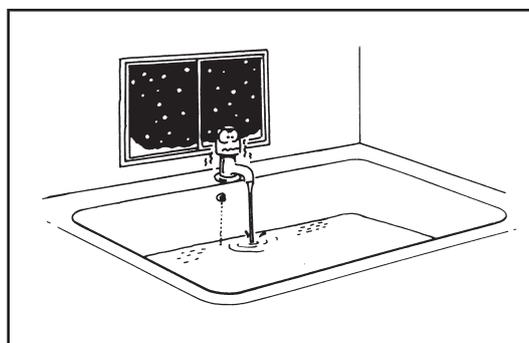
- 事前に販売店にご相談ください。
- 給湯機は給湯機の取扱説明書に従って凍結防止を行ってください。
- 万一、凍結してしまった場合は、販売店にご相談ください。

(1) 給湯栓から水を流しっぱなしにする方法

浴槽の給湯栓より少量の(地域によって異なります)水を流しっぱなしにしておきます。1分間に400ccが適量です。

(2) 凍結防止ヒーターを使用する方法

凍結防止ヒーターが組み込まれている場合は、その電源を入れます。凍結防止ヒーターが正常に働いていることを確認します。(凍結防止ヒーターの外から触って、暖かければ正常です。)



5. ご使用方法

(3) 本体の水を抜く方法

①電源プラグを抜きます。

②給水栓を閉じます。

③化粧ネジ2本をゆるめて前板を外します。

④逃がし弁のレバーを上に取り上げます。

▲ 注意

排水する場合、逃がし弁のレバーを引き上げてください。引き上げずに排水した場合、缶体内が負圧となり変形する恐れがあります。

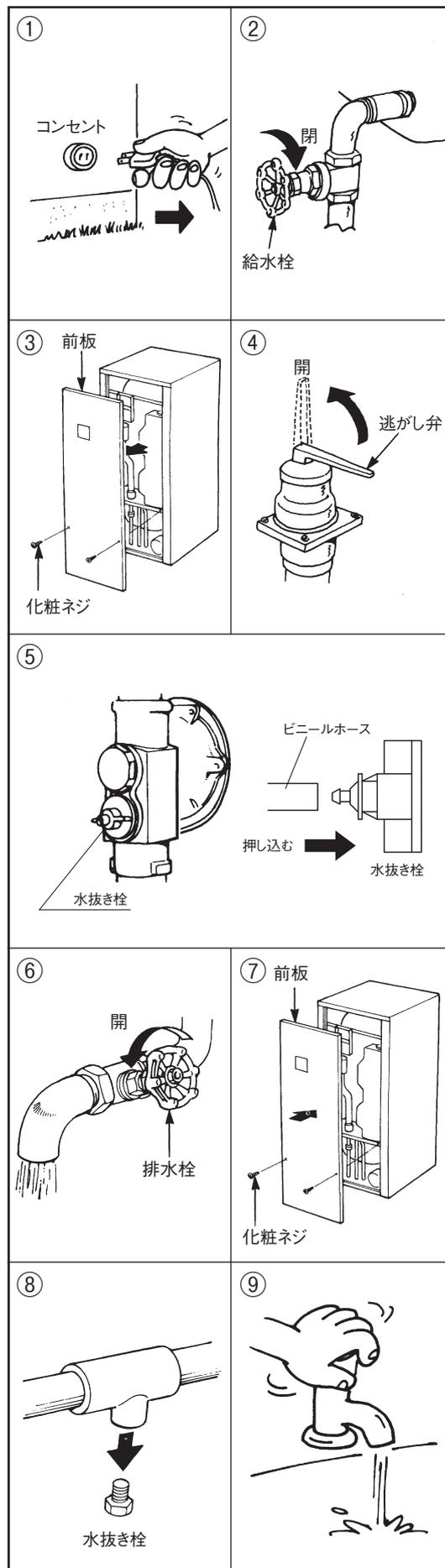
⑤減圧弁の保温材を外して、付属のビニールホースを水抜き栓に差し込み、水抜き栓を押し込んで減圧弁の中の水を抜きます。

⑥本体下部の排水栓を開けて水を抜きます。

⑦化粧ネジ2本で前板を取り付けます。

⑧給湯配管の水抜き栓を開けます。

⑨すべての給湯栓を開けます。



(再度お使いになる場合の手順)

- ①すべての給湯栓・給湯配管の水抜き栓を閉じます。
- ②化粧ネジ2本をゆるめて前板を外します。
- ③逃がし弁の排水ホースを機外に出します。
- ④本体下部の排水栓をすべて閉じます。
- ⑤給水栓を開けて水を入れます（満水になるまでしばらく時間がかかります）。
- ⑥満水になると逃がし弁の排水ホースから水が出ますので、逃がし弁のレバーを元の位置（閉）に下げます。

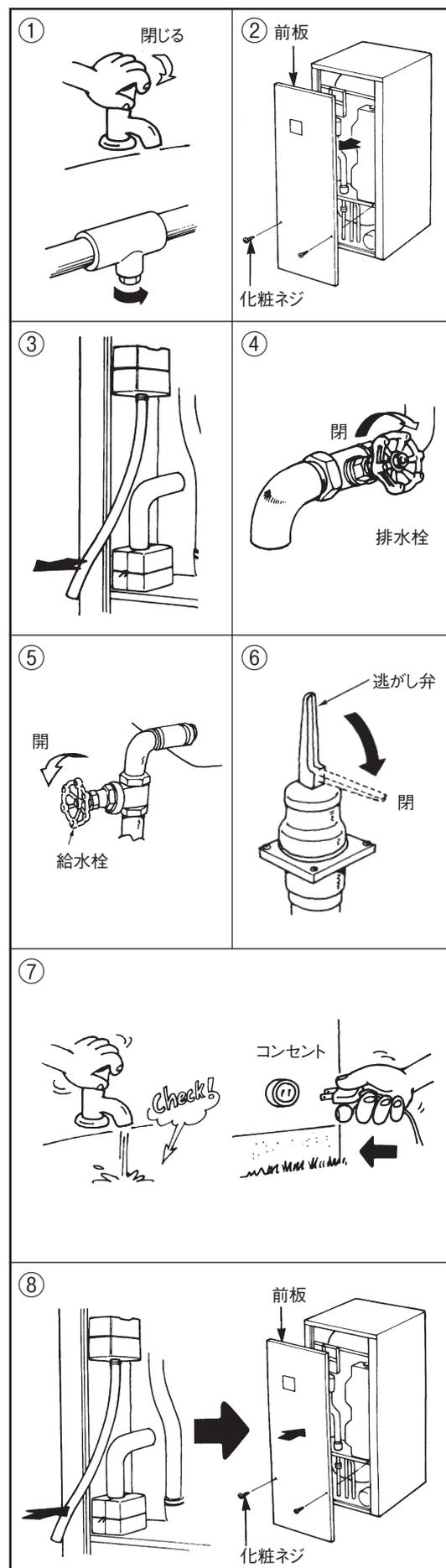
▲注意

逃がし弁の排水ホースから排水されることを確認してから逃がし弁のレバーを元通りに下げてください。確認しないと、正しく給湯できません。

- ⑦給湯栓から水が出ることを確認した後、本体の電源プラグを差し込みます。
- ⑧逃がし弁の排水ホースを元通りに機内に納め、化粧ネジ2本で前板を取り付けます。

[4] 長期停止（1週間以上）

長期にわたって使用しない場合は、14ページの手順で水抜きを行ってください。また、再度使用する場合も上記の手順に従って操作してください。



6. お手入れの方法

【1】逃がし弁の作動テスト

逃がし弁は集熱時の水の膨張等により、貯湯槽の圧力が必要以上に上昇したとき圧力を逃がすためのものです。水垢等により正常に作動しなくなると圧力を逃がせなくなり、貯湯槽・配管の破裂や漏れの原因になることがあります。

月に1～2回程度下記手順にて作動の確認を行ってください。

▲注意

排水する場合、逃がし弁のレバーを引き上げてください。引き上げずに排水した場合、缶体内が負圧となり変形する恐れがあります。

- ①化粧ネジ2本をゆるめて前板を外します。
- ②逃がし弁の排水ホースを機外に抜き出します。

▲警告

逃がし弁の排水ホースを機外に抜き出すときは、排水が手足にかからないようにしてください。排水ホースから熱湯が出る恐れがあります。

- 逃がし弁の排水ホースを機外に抜き出さないと、排水が貯湯槽内に漏れます。
- ③逃がし弁のレバーを引き上げ、本体下部の排水栓を開けて排水口から水が出ることを確認します。
- レバーを引き上げても排水されない場合は、販売店に連絡して処置をしてください。
- ④排水を確認した後、逃がし弁のレバーを元に戻して（閉にする）排水が止まることを確認します。
- 逃がし弁のレバーを元に戻しても排水が止まらないときは、2～3度レバーを上下した後もう一度元に戻して排水が止まることを確認してください。それでも排水が止まらないときは、販売店に連絡して処置をしてください。
- ⑤排水栓を閉じます。
- ⑥逃がし弁の排水ホースを元通りに機内に納め、化粧ネジ2本で前板を取り付けます。

【2】ストレーナーの清掃

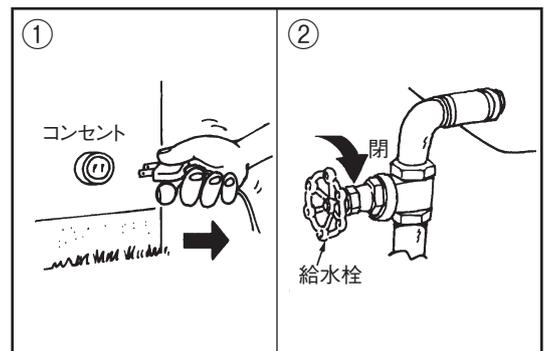
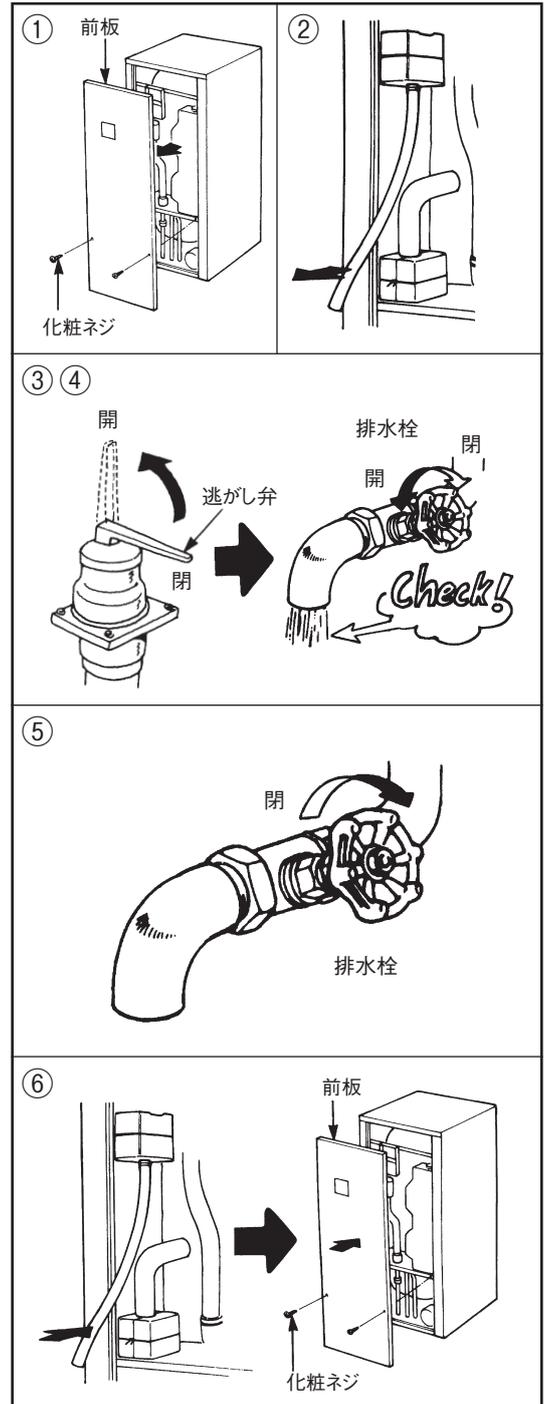
減圧弁の内部にはストレーナーが組み込まれていて、給水中のゴミ等を取り除く役目をしています。

ストレーナーがゴミ等で詰まると、お湯の出が悪くなります。その都度、下記手順にて清掃してください。

▲注意

排水する場合、逃がし弁のレバーを引き上げてください。引き上げずに排水した場合、缶体内が負圧となり変形する恐れがあります。

- ①電源プラグを抜きます。
- ②給水栓を閉じます。



③化粧ネジ2本をゆるめて前板を外します。

④逃がし弁の排水ホースを機外に抜き出します。

警告

逃がし弁の排水ホースを機外に抜き出すときは、排水が手足にかからないようにしてください。排水ホースから熱湯が出る恐れがあります。

⑤逃がし弁のレバーを引き上げます。

⑥貯湯槽下部の排水栓を開けて水を抜きます。

⑦水抜きが完了したら減圧弁の保温材を外し、ストレーナー止めネジをプライヤー等で外し、ストレーナーを取り出します。

●止めネジを外すと2～3リットルの水が出ます。バケツ等で受けてください。

⑧ストレーナーの網を洗って、ゴミや汚れを落とします。歯ブラシ等を使うと簡単にできます。

⑨洗ったストレーナーを元通りに減圧弁に組み込み、保温材を取り付けます。

注意

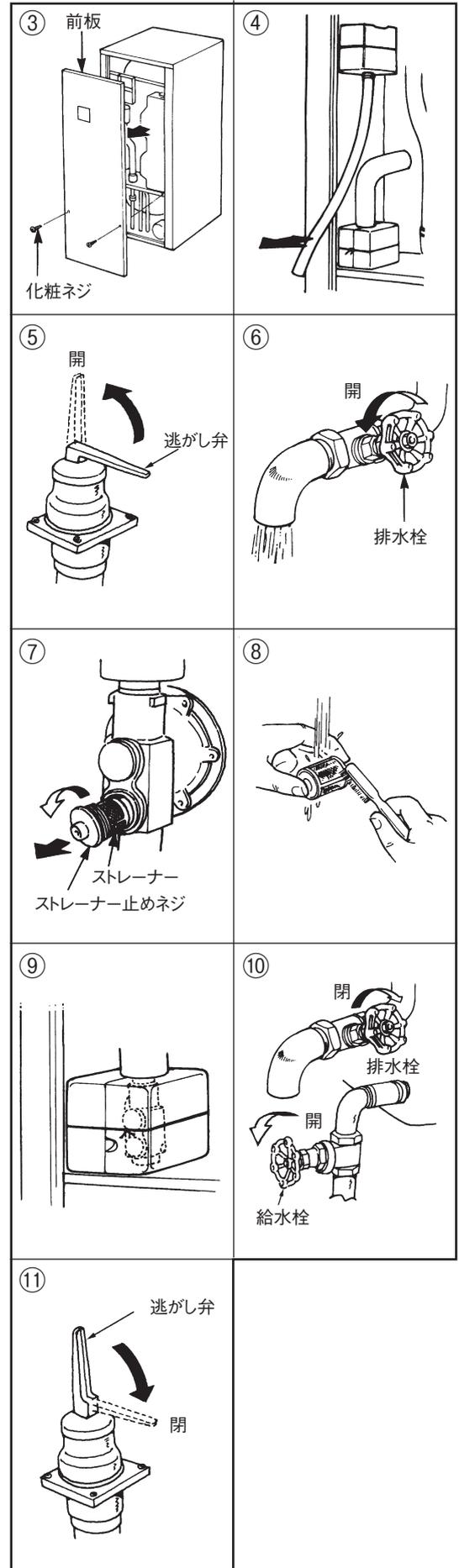
ストレーナーを正しく組み込んでください。正しく組み込まないと、減圧弁の機能を損なう恐れがあります。

⑩排水栓を閉じ、給水栓を開けて水を入れます（満水になるまでしばらく時間がかかります）。

⑪満水になると逃がし弁の排水ホースから水が出ますので、逃がし弁のレバーを元の位置（閉）に下げます。

注意

逃がし弁の排水ホースから排水されることを確認してから逃がし弁のレバーを元通りに下げてください。確認しないと、正しく給湯できません。



6. お手入れの方法

⑫給湯栓から水が出ることを確認した後、本体の電源プラグを差し込みます。

⑬逃がし弁の排水ホースを元通りに機内に納め、化粧ネジ2本で前板を取り付けます。

【3】 空気抜き弁の清掃

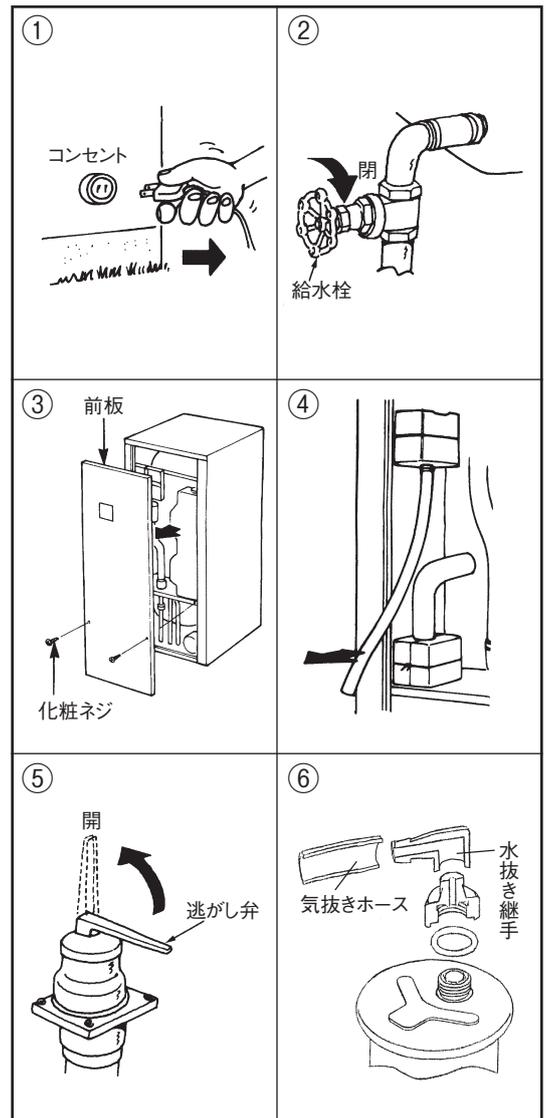
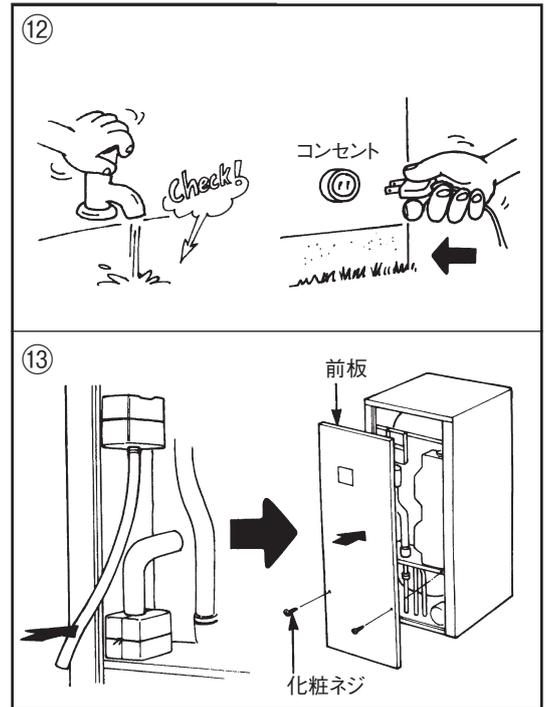
空気抜き弁とは、缶体の中を常に水またはお湯で満水に保つために、缶体の中の余分な空気を抜き出すためのものです。この働きで缶体の中が水分を含んだ空気によって錆びるのを防いでいます。万が一空気抜き弁から水が漏れている場合は、弁内部にゴミが詰まっている恐れがあります。水漏れが確認されたら、空気抜き弁の機能を損なわないように、その都度下記手順にて清掃してください。

- ①電源プラグを抜きます。
- ②給水栓を閉じます。
- ③化粧ネジ2本をゆるめて前板を外します。
- ④逃がし弁の排水ホースを機外に抜き出します。

⚠ 警告

逃がし弁の排水ホースを機外に抜き出すときは、排水が手足にかからないようにしてください。排水ホースから熱湯が出る恐れがあります。

- ⑤逃がし弁のレバーを上引き上げ、缶体および配管内の圧力を抜きます。
- ⑥缶体頂部の空気抜き弁に付いている気抜きホースを外して、弁座をスパナ（呼び12）で外します。



⑦弁座を外してシール面と弁座を清掃します。ウエス等で付着しているスケールやゴミを拭き取ります。

⑧清掃が済んだら、弁座の溝にOリング (S9) をはめてねじ込み、スパナで締めます。

注意

空気抜き弁は正しく組み込んでください。正しく組み込まないと、機能を損なう恐れがあります。

⑨気抜きホースを接続して給水栓を開けて水を入れます。

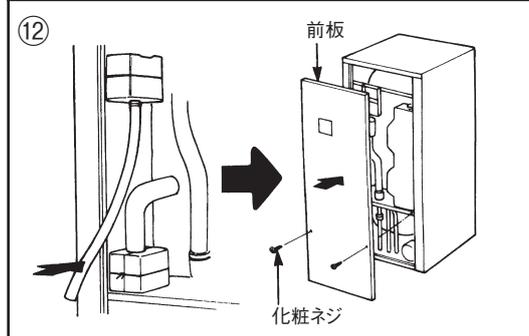
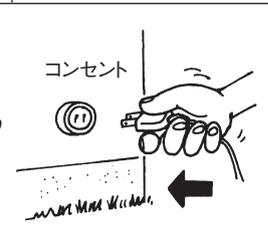
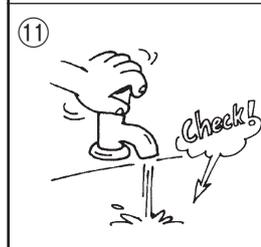
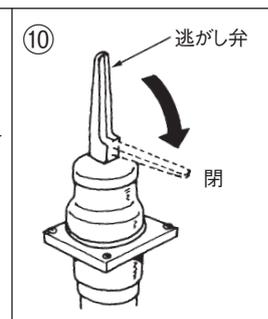
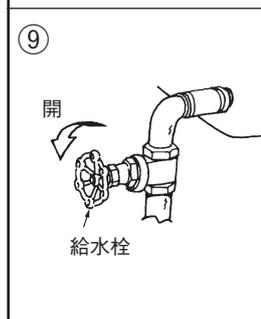
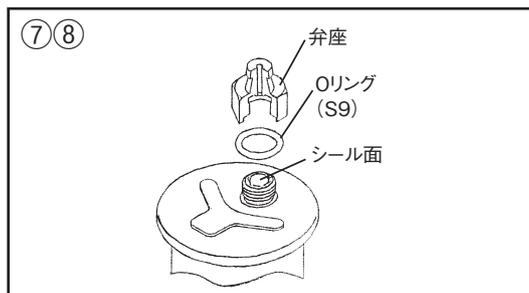
⑩満水になると逃がし弁の排水ホースから水が出ますので、逃がし弁のレバーを元の位置に下げます。

注意

逃がし弁の排水ホースから排水されることを確認してから逃がし弁のレバーを元通りに下げてください。確認していないと、正しく給湯できません。

⑪給湯栓から水が出ることを確認した後、本体の電源プラグを差し込みます。

⑫逃がし弁の排水ホースを元通りに機内に納め、化粧ネジ2本で前板を取り付けます。



[4] 缶体水の入れ替え

水垢や沈殿物による腐食から缶体を保護するため、1年に一度の割合で缶体内の全水の入れ替えを実施してください。

警告

ご自分で機器の修理改造・分解を行わないでください。

注意

排水する場合、逃がし弁のレバーを引き上げてください。引き上げずに排水した場合、缶体内が負圧となり変形する恐れがあります。

①電源プラグを抜きます。

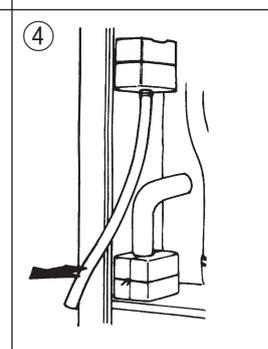
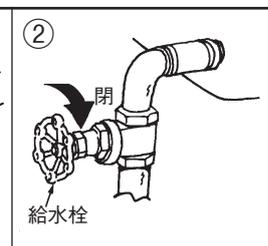
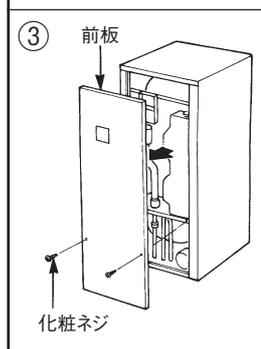
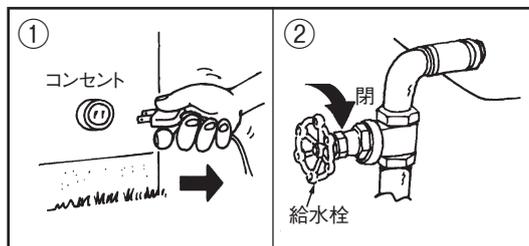
②給水栓を閉じます。

③化粧ネジ2本をゆるめて前板を外します。

④逃がし弁の排水ホースを機外に抜き出します。

警告

逃がし弁の排水ホースを機外に抜き出すときは、排水が手足にかからないようにしてください。排水ホースから熱湯が出る恐れがあります。



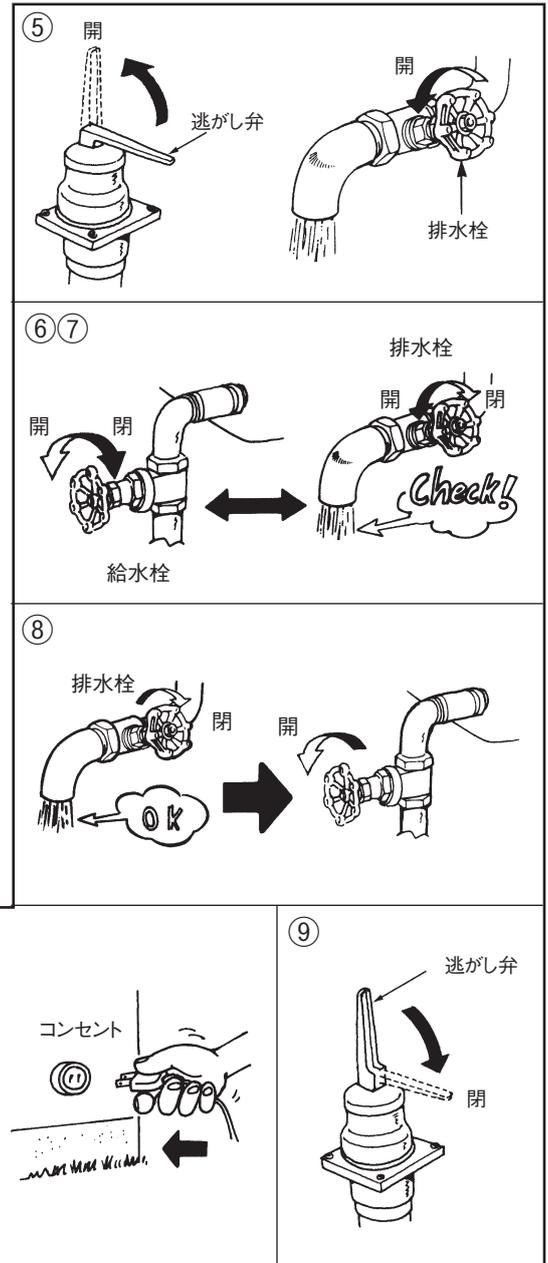
6. お手入れの方法

- ⑤ 逃がし弁のレバーを上引き上げ、貯湯槽下部の排水栓を開けます。
- ⑥ 4～5分経ったら、排水栓を閉じ、給水栓を4～5分開いて水を本体に入れます。
- ⑦ 再び、給水栓を閉じて排水栓を開いて水を排水します。排水した水がきれいかどうか確認して、汚れていれば⑥～⑦を繰り返します。
- ⑧ 排水した水がきれいになったら排水栓を閉じ、給水栓を開けて水を入れます。
- ⑨ 満水になると逃がし弁の排水ホースから水が出ますので、逃がし弁のレバーを元の位置に下げてください。

▲ 注意

逃がし弁の排水ホースから排水されることを確認してから逃がし弁のレバーを元通りに下げてください。確認していないと、正しく給湯できません。

- ⑩ 給湯栓から水が出ることを確認した後、本体の電源プラグを差し込みます。
- ⑪ 逃がし弁の排水ホースを元通りに機内に納め、化粧ネジ2本で前板を取り付けます。



【5】 熱媒（プロピレングリコール水溶液）

熱媒は集熱運転中に蒸発して減量することがあります。年に一度は濃度チェック、汚れ等の検査をお買い求めの販売店へご依頼ください。

熱媒は長期間使用すると劣化し、防錆効果が低下します。定期的（7年）に全量交換(有料)をお買い求めの販売店へご依頼ください。使用済みの熱媒は必ず専門業者に依頼して廃棄してください。

▲ 注意

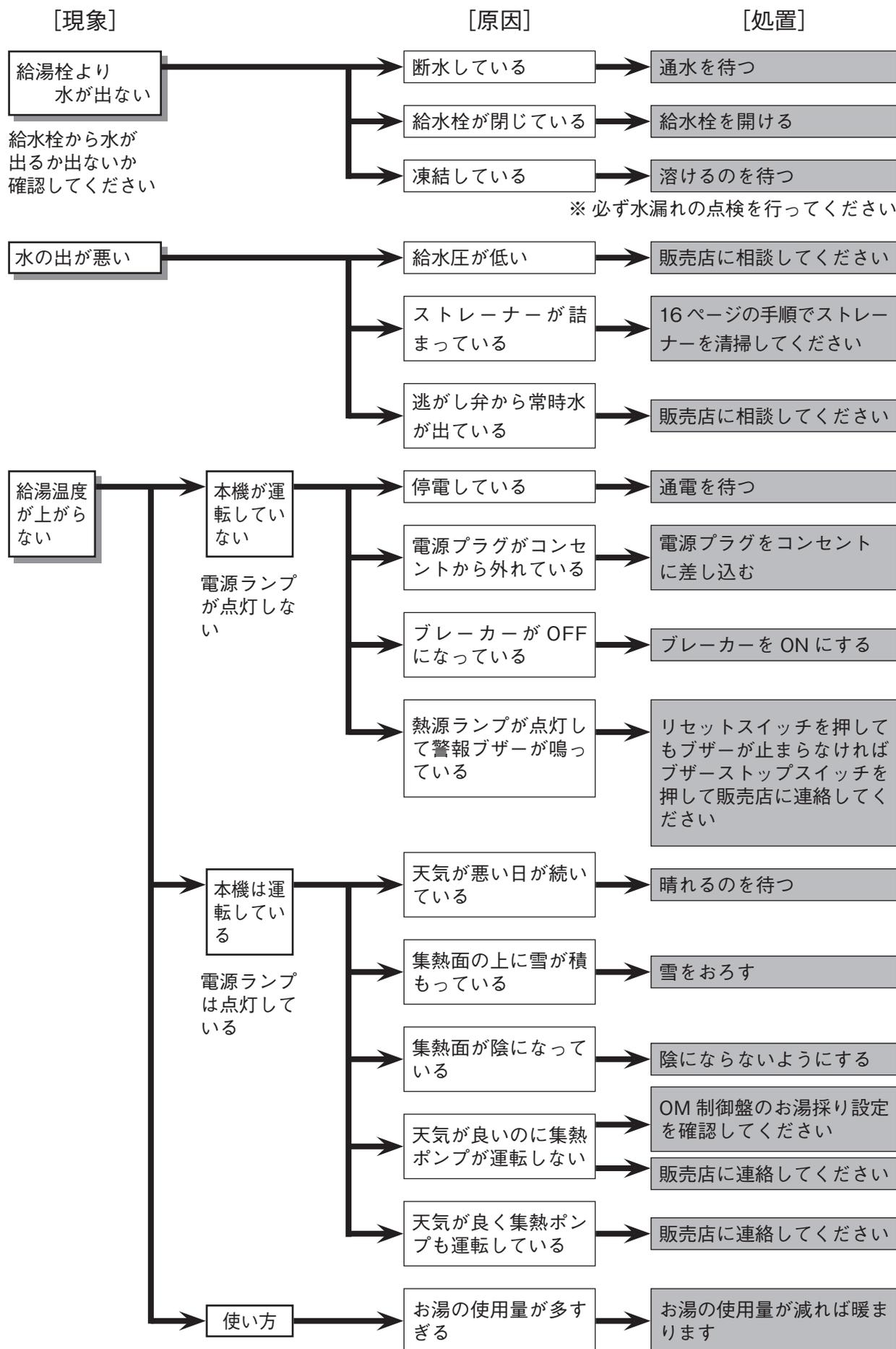
熱媒は弊社指定品を使用してください。

▲ 注意

熱媒の廃棄は専門業者に処理してもらってください。

7. 修理を依頼される前に

ご使用中に、万一故障と思われる現象が発生した場合、修理を依頼される前に次のことをご確認ください。



8. アフターサービス(修理依頼)

【1】保証書

保証書は必ずお買い上げ日、販売店名などの記入を確かめて、販売店からお受け取りください。保証書の提示が無い場合、保証期間内であっても保証致しかねる場合がございます。よくお読みのと、大切に保管してください。

【2】修理を依頼される場合

前ページの「7. 修理を依頼される前に」に従って調べていただき、なおらない場合は、次の処置をしてください。

●お買い上げの販売店にご連絡ください。保証書の規定に従って販売店が修理いたします。

【連絡していただきたい内容】

- ご住所・お名前・電話番号
- 製品名・形式・お買い上げ日
- 故障、または異常の内容……できるだけ詳しくお知らせください。
- 訪問ご希望日

【3】有償点検

安全にお使いいただくために、専門の技術者による定期的な点検が必要です。点検は、お買い上げの販売店へ依頼してください。

(1) 1年ごとの定期点検

住宅用ソーラー給湯システム定期点検報告書に基づき、1年に一度の割合で実施する点検です。

(2) 5年に一度の安全点検

5年に一度を目安に実施する、機器および設置状況に関する安全点検です。

【4】消耗部品一覧

- フロートスイッチ
- 集熱ポンプ
- 熱媒ホースA
- 熱媒ホースB
- 熱媒ホースC
- 熱媒ホースD
- 減圧弁
- 逃がし弁
- 空気抜き弁
- バキュームブレーカ
- 熱媒

【5】ご使用期限の目安

- 本機の寿命は、ご使用中の維持管理の状況により大きく左右されます。
- 設置後 10 年程度を経過した本機については、安全の上からも交換をおすすめいたします。
機器のお取り外し、および廃棄処分を希望される場合には、お買い上げ販売店までご連絡ください。

【6】補修用性能部品の保有期間

この製品の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 10 年です。
補修用性能部品とは製品の性能を維持するための部品です。

【7】本機についてのご質問など

お買い求めの販売店にお問い合わせください。

お問い合わせ先

OM ソーラー株式会社

〒431-1207 静岡県浜松市西区村櫛町 4601

TEL053(488)1700(代)
<http://omsolar.jp/>